

市町村名 与那国町

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (1-①, 地域振興対策事業), 担当部課名 (企画財政課), 事業実施(予定)年度 (平成24~令和3年度), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-3-(12)-ア), 沖縄振興基本方針該当箇所 (Ⅲ-1-(1))

事業内容 「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」に、これまでの参加者の再訪と、島外からの参加者を募り既存の観光イベントへの活性化を図る。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 □直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()

Table with 7 columns: 予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース), H27年度, H28年度, H29年度, H30年度, R1年度. Rows include (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額(b-a), (d)繰越額, A.計(b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), and 予算の状況の説明 (事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。)

Table with 5 columns: R1活動目標(指標), H28年度, H29年度, H30年度, R1年度. Rows include カジキ釣り大会の補助(7月) and 一周マラソン大会の補助(11月) with 目標 and 実績 columns. Includes 達成状況説明 (目標として掲げた2大会を予定通り開催することができた。カジキ釣り大会においては、30回目の記念大会となり、参加者数も昨年より増えた。申し込み枠を超えて応募もあった。今後、参加可能枠を現状より広げられると、さらに活気ある大会となると考えられ、チャーター船増が課題となる。)

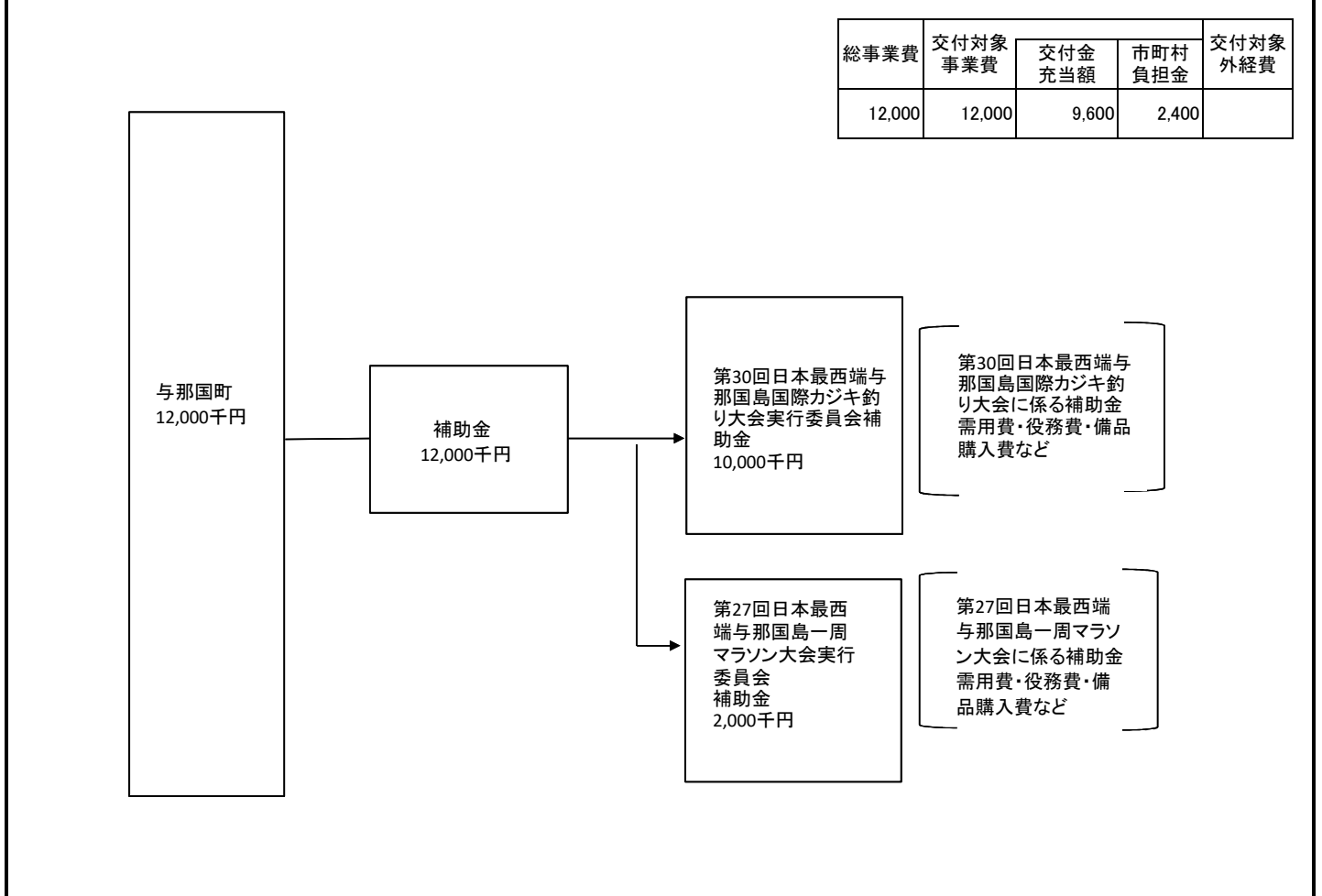
Table with 7 columns: R1成果目標(指標), 基準値(年度), H29年度, H30年度, R1年度, 目標値(年度). Rows include カジキ釣り大会参加者110人 and 日本最西端与那国島一周マラソン大会参加者数700人 with 目標 and 実績 columns. Includes 進捗状況説明 (「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」「日本最西端与那国一周マラソン大会」両大会共に参加者は増。カジキ釣り大会においては、第30回の記念大会であったこと、マラソン大会においては、大会初の招待選手が参加したことが影響したのではないかと考えられる。)

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【カジキ釣り大会】 ・トローリングの部においてボートの貸し出しを地元漁船を用いているが、参加者申し込み増により地元漁船のみでは足りず、参加者申し込み者の取りこぼしが発生している。昨年度も同様の課題があり、今年度は島外からのチャーター船を一旦確保したが、装備不足により参加を断念した。 ・サブアトラクションの親子釣り大会において参加者数が少なさが目立った。	【カジキ釣り大会】 ・トローリング参加希望者が、全員参加できるように次年度は漁業組合と相談し、当方の必要条件とマッチする依頼先を検討しチャーター船を確保し、チャーター船の数を増やす。 ・島民と観光客の交流のためにも親子づり大会に島民の参加を呼びかけ、大会を町全体で盛り上げるようにする。
	【マラソン大会】 ・招待選手の参加もあり前年を上回ることができた。しかし、近年のランニングブームから考えるとまだ余力があると考え。	【マラソン大会】 ・現在広告方法は町HPが主流であるが、SNSやネット広告・他市町村やマラソン開催市町村への連携をより多くの参加者を募る。

今後の取り組み方針

【カジキ釣り大会】 ・条件が整ったチャーター船を確保するために早い段階から漁業組合と調整を行う。 ・カジキ釣り大会全体だけでなく、親子釣り大会単体として、島内放送・ポスターの掲示・学校への案内を行い、親子の参加者増を目指す。
【マラソン大会】 ・インターネットやSNSを活用した広告方法や他の市町村やマラソン会場での広告などいずれも大会の周知と参加者の増を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



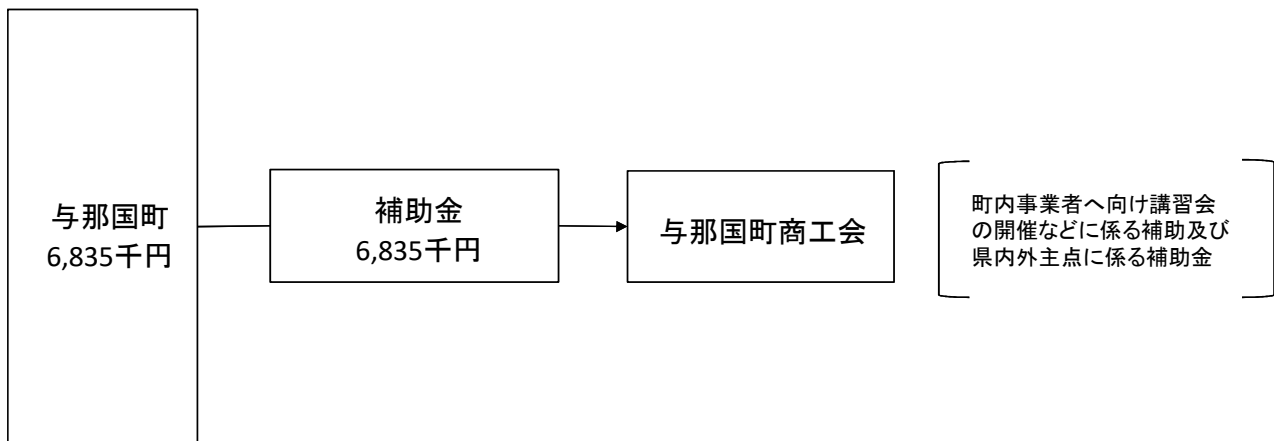
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助金交付申請により事業内容を確認の上、決定した。 ・委託事業者は指名競争入札方式で企業組織・実績を勘案した上で選定した。 ・費用・資金使途については事業目的達成の観点から必要性を確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	与那国島特産品アピール強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成25年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	県内外に与那国島産品をPRすることを目的とした物産展の出展。専門家による販路開拓・販売促進をねらいとした店舗のレイアウトや陳列方法、POPの作成方法など、専門家による講習会を開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,500	7,286	8,000	8,000	8,000
		(b) 予算現額	4,500	7,286	8,000	8,000	6,835
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	▲ 1,165
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)	4,500	7,286	8,000	8,000	6,835	
	B. 執行済額	3,408	5,542	5,122	6,288	6,835	
	うち交付金充当額	2,726	4,433	4,097	5,030	5,467	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	75.7%	76.1%	64.0%	78.6%	100.0%	
予算の状況の説明	予算の不要額の発生については、講習会の開催が予定開催数より1回減となったこと、物産展への参加予定業者の不参加によることが要因である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	物産展出展 県内1回:離島フェア出展 県外1回:未定(与那国島フェア)	目標	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	
		実績	県内出展1回 県外出展1回	県内出展1回 県外出展1回	県内出展1回 県外出展1回	県内出展1回 県外出展1回	
	店舗レイアウトや陳列方法、POPの作成方法など、専門家による販路促進のための講習会の開催 3回	目標	(講習会開催4回)	(講習会開催4回)	(売上増を図る)	(講習会開催3回)	
		実績	講習会開催4回	講習会3回	実施	2回	
達成状況説明	令和元年度の販売促進・販路拡大を目的とする講習会は、店舗ごとのショップカード(店舗案内)の作成やショッピングバックの作成を主に実施。新規参加事業者ののぼりの作成なども行った。計画していた3回の内1回に関しては他事業で別途開催し、本事業での講習会開催は2回として計上した。毎年、県外物産展の開催時期や開催地が異なるため、参加予定としていた業者であっても都合がつかず参加できないケースがある。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	参加した物産展において与那国島産品の売上高190万円以上	目標	()	(180万円)	(180万円以上)	(190万円)	()
		実績		160万円	139万円	154万円	
	【参考指標】 物産展出展数13事業者	目標	()	(13業者)	(13業者)	(13業者)	()
		実績		10業者	9業者	10業者	
	進捗状況説明	令和元年度の県外での物産展は、3度目の横浜での開催となる。2度の開催で定着しつつあったリピーターであるが、前回の開催より時間が空いたことや、天気の影響もあり、売り上げは目標を下回る結果となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・令和元年度は、各出展者ごとにショップカードを作成したことで、物産展開催後の問い合わせが増えた。今後はこの結果を基に通信販売等の充実を図ることで売り上げの増加を期待できる。</p>	<p>・販促効果を活かすために事業者のEコマース等を強化し販売手段のさらなる充実を図り売り上げ増加につなげる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>販促ツールを有効に活用した商品の説明や接客方法やEコマースなどの新しい知識を深める講習会を開催し、これまでの実績をより活かして売上増・販路開拓を目指す。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,835	6,835	5,467	1,368	0



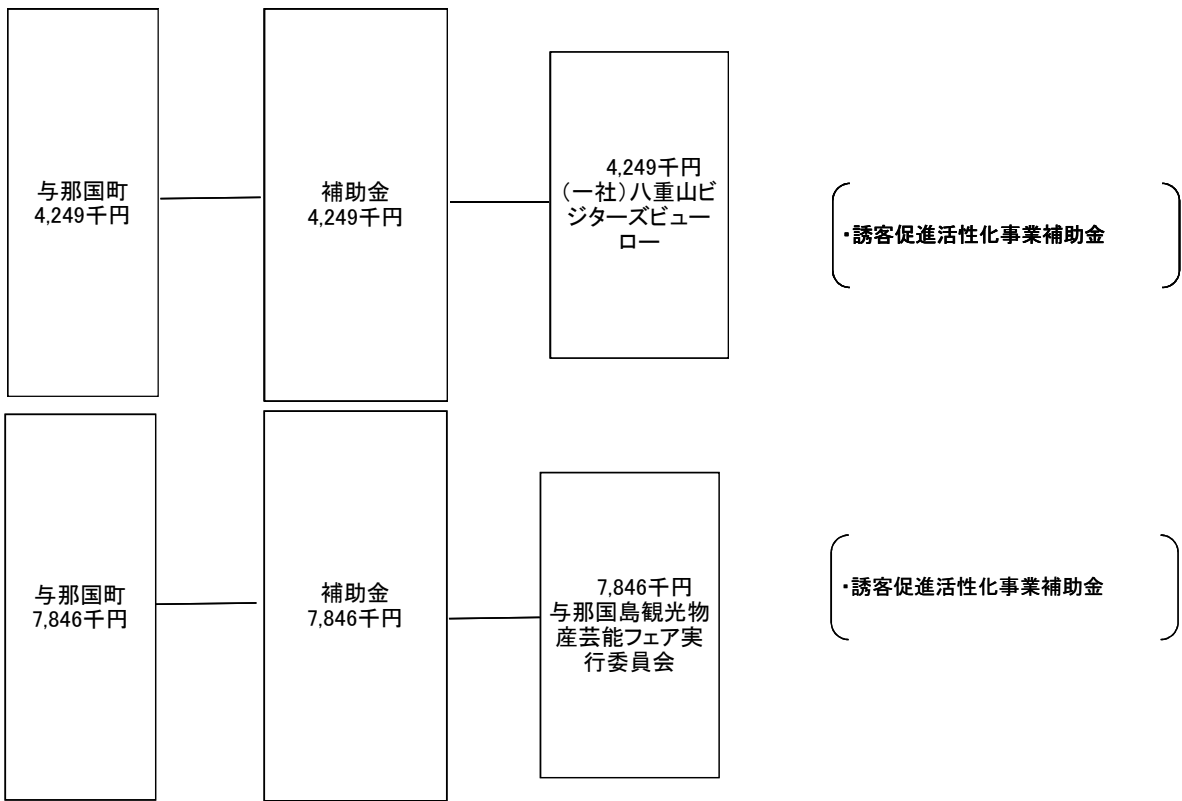
資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・補助金の支出先は、与那国町特産品強化事業補助金交付要綱に基づき選定</p> <p>・資金使途や費用項目については事業目的の達成の観点から必要性を確認</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	与那国町誘客促進活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部署	企画財政課 交流推進班	事業実施(予定)年度	平成30～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	与那国島観光物産・伝統芸能フェアを開催し、与那国島のPR活動を行うことで、観光誘客に繋げる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	5,034	13,034				
	(b) 予算現額	5,034	12,095				
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 939				
	(d) 繰越額	0	0				
	A. 計(b+d)	5,034	12,095				
	B. 執行済額	5,034	12,095				
	うち交付金充当額	4,027	9,676				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	計画の一部は変更になったものの概ね当初計画のとおり事業を適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・与那国島観光物産・伝統芸能フェアの開催	目標	(開催)	(開催)	()	()	
		実績	未実施	実施			
	・トップセールスによる空路開拓、商品造成	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
	・PRツール作成	目標	(作成)	(作成)	()	()	
		実績	実施	実施			
	・既存事業の内容充実とPR強化	目標	(実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
・観光客意識調査や市場調査等による情報収集と分析	目標	(実施)	(実施)	()	()		
	実績	実施	実施				
達成状況説明	・県内でのフェアを3日間予定していたが台風襲来により2日間の開催となった。また、トップセールス、パンフレット、観光動向調査及び既存イベントでのPR活動ができ誘客促進を図れた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H31成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	・物産・伝統芸能フェア来場者数 450人	目標	()	(450人)	(450人)	()	()
		実績			0人	4,627人	
	・チャーター便による観光入域客数 1,000人増	目標	()		527人	(1,000人増)	()
		実績			1,280人	370人	
進捗状況説明	・当初フェア開催3日間予定していたが天候により2日間の開催であったものの目標数に達しており適正だったと考える。 ・チャーター便による観光客数増での状況では3月に就航計画及び予定していたため、コロナウイルス感染症拡大に伴い減便やキャンセルが相次いだ為目標数には及ばなかった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> フェア開催の中で物産展や芸能公演等で来場者の満足度等を検証する必要がある。 チャーター便受入に関しては社会的状況を見極めながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> フェア開催地の確保等の調整を踏まえ連携(交付決定及び関係者等の連携)及び体制強化に努める。また、費用対効果を図るためクーポン券等を配り来場者の満足度等を検証し、併せて関係者も含め、事前調整を万全に努める。 チャーター便受入には社会的状況を見極めながら取り組むとともに費用対効果も併せて検討して実施する。
	今後の取り組み方針	
<p>フェア開催に向けて事前に会場の確保(仮)及び関係各位等の調整に努めるとともに、アンケート調査の実施を行うことで本事業の向上に努める。また、トップセールスの実施、観光動向調査を引き続き実施し誘客促進活性化に繋げる。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,095	12,095	9,676	2,419	0



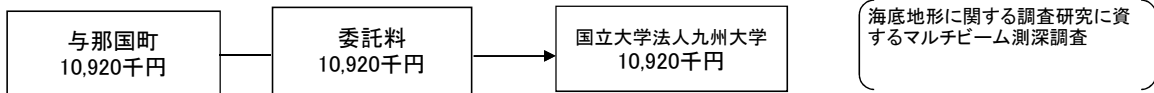
資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○八重山観光関係を網羅する社団法人であるため適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○一部未執行であったもののその他事業に見合った規模であり適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○一般社団法人(各首長組織)であるため妥当と考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	海底景観資源調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-(ア)	
担当部署名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成29年～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	与那国を象徴する海底地形に対して、最先端のマルチビーム測深調査を実施し、観光資源として適切な活用及び保全、学術研究の基礎となる海底精密地形図を作成する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,700	15,500	10,920		
		(b) 予算現額	11,700	15,500	10,920		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		11,700	15,500	10,920	0	0
	B. 執行済額		11,700	15,500	10,920		
	うち交付金充当額		9,360	12,400	8,736		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初計画のとおり委託を適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R1年度	
	・海底精密地形図(原図)の作成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	・海底精密地形図(完成図)の作成	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
達成状況説明	平成30年度に取得した測深データの処理を浅海底フロンティアセンターにて行い、並行して、海底地形図作成のためのデータ処理が適切に行われたかどうかを確かめるための潜水調査を実施した。シンポジウム(報告会)は与那国町(11月)と福岡(1月)で実施した						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・海底精密地形図(原図)の完成	目標	()	()		(完成)	()
		実績				完成	
	・海底精密地形図(完成図)の完成	目標	()	()	()	(完成)	()
		実績				完成	
	進捗状況説明	平成30年度に取得した北海岸のマルチビーム測深データ(30.4平方km)について、地図化を行うためのデータ処理を実施したことで、与那国島全周にわたるデータ処理が終了し、海底地形図が完成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	与那国島の沿岸浅海底域は、観光や漁場としての利用も盛んな場所でありながら、自然科学や人文科学、観光など様々な学術的調査を進めるにあたって必要な海底地形図が存在しなかった。高精度海底地形図が完成したことによって、様々な調査研究、活用を進めていく基盤が整った。	大規模な浸食地形やサンゴ礁地形といった海底景観、水中文化遺産としての価値が認められる幅広い時代の多種多様なアンカー(錨)など、潜水調査中に発見された海底資源を、観光資源として発展させていく必要がある。
	今後の取り組み方針	
海底地形景観や水中文化遺産について、作成した海底地形図(正確な情報)を使用した現地潜水調査を専門機関へ依頼、学術論文や学会で発表された成果に基づいて、一般観光客にも理解しやすい解説や写真を付したガイドマップを作成し、グラスボート観光、ダイビング観光に活用する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,920	10,920	8,736	2,184	



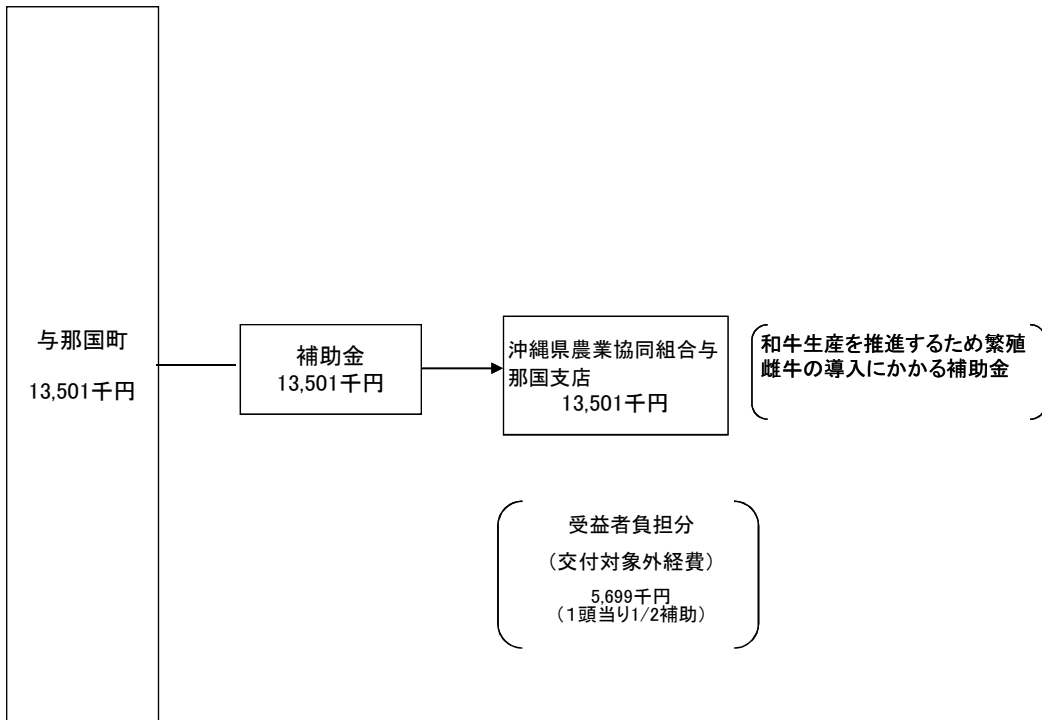
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は測深だけでなく、海底地形を科学的に評価できる国内唯一の専門機関であり、本事業者でなければ、確実な対応、成果が期待できない事から、随意契約は妥当であったと考えている。 ○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	優良牛繁殖雌牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	農家の経営の安定化に向けて、子牛のブランド化を推進するため、優良母牛導入の支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
		9,000	4,500	10,000	10,000	12,500		
		7,500	8,964	15,000	15,000	14,000		
		▲ 1,500	4,464	5,000	5,000	1,500		
		-	-	-	-	-		
		7,500	8,964	15,000	15,000	14,000		
		4,800	8,649	10,891	10,891	13,501		
		3,840	6,919	8,712	8,712	10,801		
		0	0	0	0	0		
		64.0%	96.5%	72.6%	72.6%	96.4%		
予算の状況の説明	当初計画していた、導入頭数25頭については予定どおり実施した。予算残額で追加要望のあった農家4名が5頭の導入を行い計30頭の導入となった。不用額449千円については導入残額である。							
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	優良母牛導入の支援		目標 (優良牛繁殖雌牛導入の実施)	(30頭)	(20頭)	(25頭)		
		実績	優良牛繁殖雌牛導入の実施	24頭	23頭	30頭		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・優良牛繁殖雌牛導入の実施25頭を目標に事業を進めたが、事業執行時において導入希望者が当初予定者より増加したことにより導入率が120%に増加した。 ・和牛生産の安定を図るため、優良繁殖雌牛の導入にかかる費用の一部を実施したことにより、老廃牛の更新が図られ本町の畜産振興及びの農家所得の向上が図られた。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合124%以上		目標	()	(109%以上)	(109%以上)	(124%以上)	()
			実績		111.0%	114.0%	102.0%	
	【参考指標】優良牛繁殖雌牛導入率		目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合124%以上を目標に事業を進めたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により2月～3月セリ価格が下落し目標達成することが出来なかった。 							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・県内離島より導入した血統について、種付けした血統について疑義が生じている事例が発生している。	・より安全な血統の優良繁殖雌牛導入を図るため、導入前の地域の検討をおこない偏った血統にならないよう導入地域の検討を図る必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>・これまで鹿児島県及び宮崎県から多くの優良母牛を導入して来たが、より優良な優良繁殖雌牛導入のため外の地域から導入の検討を行い、更なる優良母牛の増頭を図るため生産部会を中心に導入地域の検討に取り組む。 また、今年度3月セリより新型コロナウイルス感染症の影響により、セリ価格の下落が続いており今後の畜産農家の支援等についても取組を強化して行く必要がある。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
19,200	13,501	10,801	2,700	5,699



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、農協を窓口して畜産農家を対象としていることから、支出先として妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○子牛価格の高騰が続く中で予算規模については、妥当な金額であったと考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については導入牛価格の1/2を負担額として決定しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	農水産物輸送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	離島のさらに離島である与那国町の地理的不利性を解消し、農水産物の島外への出荷量増加を図るため、沖縄本島への空路輸送費が同距離の陸路輸送費並みとなるよう補助を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,128	2,128	4,000	8,000	6,200
			2,128	3,308	8,000	8,000	6,200
			0	1,180	4,000	0	0
			-	-	-	-	-
			2,128	3,308	8,000	8,000	6,200
	B. 執行済額		2,128	2,562	3,632	4,387	5,492
	うち交付金充当額		1,702	2,049	2,906	3,510	4,394
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	77.4%	45.4%	54.8%	88.6%
予算の状況の説明		生鮮水産物(カジキマグロ)の漁獲量が前年度に比べ豊漁であったことで水産物については予定どおり実施した。農産物については、薬用作物の取引先寄り出荷量の制限が行われたことで不用額708千円生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	生鮮水産物の空路輸送費支援の実施	目標	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助支援)	
		実績	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助支援	
	農産物の空路輸送費支援の実施	目標	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助支援)	
実績		空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助支援		
達成状況説明	生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の県内の空路輸送費補助を実施し、これまで輸送費が負担となり出荷されなかった生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の出荷が増加し、漁業者及び農業者の負担軽減及び経営安定が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	①生鮮水産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:29.4%	目標	()	(出荷割合32%)	(出荷割合32%)	(出荷割合29.4%)	()
		実績		出荷割合24%	出荷割合30%	出荷割合23%	
	②農産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:62%	目標	()	(出荷割合65%)	(出荷割合65%)	(出荷割合62%)	()
		実績		出荷割合75%	出荷割合68%	出荷割合63%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮水産物の目標値29.4%に対し23%となった要因は、漁獲量(カジキマグロ)の県外価格(熊本市場)が高値の取引であったことから、沖縄本島への出荷割合の減少が生じたことによる。 農産物(薬用作物)の出荷目標が達成できた要因は、新に作付けした農産物(ウコン・クワンソウ)の生産量が増加し県内取引が多くなったことが大きな要因である。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮水産物については、県内のカジキマグロの取引価格が通年低価格となっており県外への出荷が多くなっている。 ・農産物については、薬用作物のみの実績となっており、前年度完成したビニールハウスを活用した野菜類の生産量の増加を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内のカジキマグロの取引価格が通年低価格で有ることから、高値で取引のあるマチ類の漁獲量の増加を図る必要がある。 ・ビニールハウス等を活用した他野菜類の生産体制の整備を進めると共に、今年度より生産量が増加した薬用作物(ウコン、クワンソウ)増産を行っていく。 <p>【カジキマグロの出荷状況】 本町では、年間約1000本のカジキマグロが水揚げされるが、島内の消費にかぎりがあり約1割程度の消費となっている。残り約6割程度を県外へ、残りの3割程度を県内へ出荷することで取引価格の安定化を図っていることから本島への出荷について補助を実施している。</p>

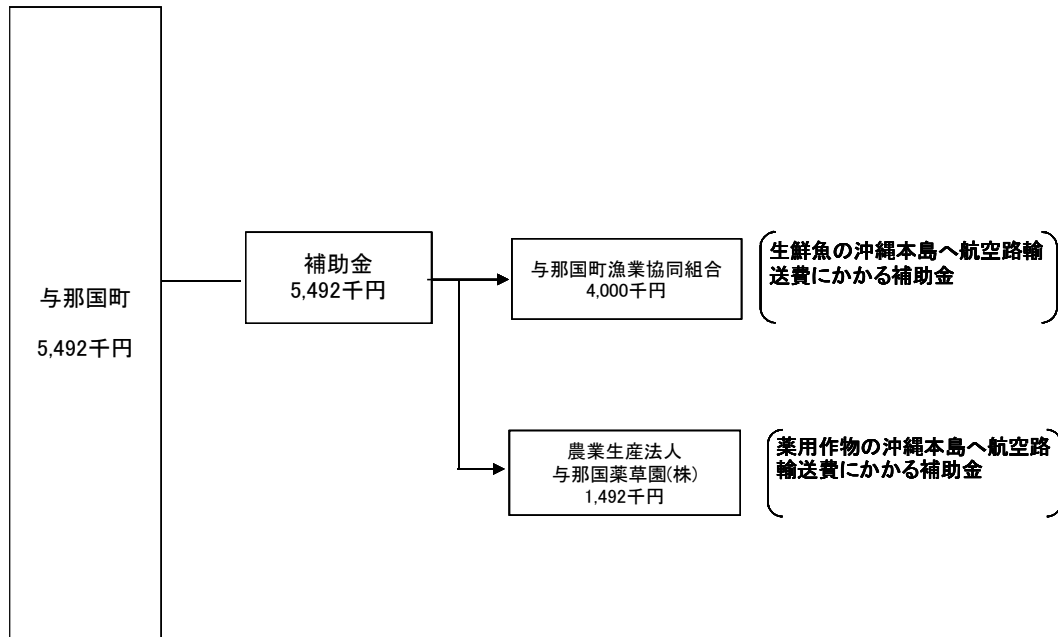
今後の取り組み方針

・今年度において未達成であった生鮮水産物の目標達成に向け、県内で高値で取引のされるマチ類及び未利用資源である他魚種の漁獲量の安定確保を図り、漁業者の所得向上に向け漁協運営状況、出荷状況等の支援を実施し事業効果の発現に取り組む。

・農産物については、ビニールハウスを活用した野菜類の生産量の安定的な生産を図りつつ、ウコン、クワンソウの生産量が増加していることから、増産に向け更なる事業効果の発現に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

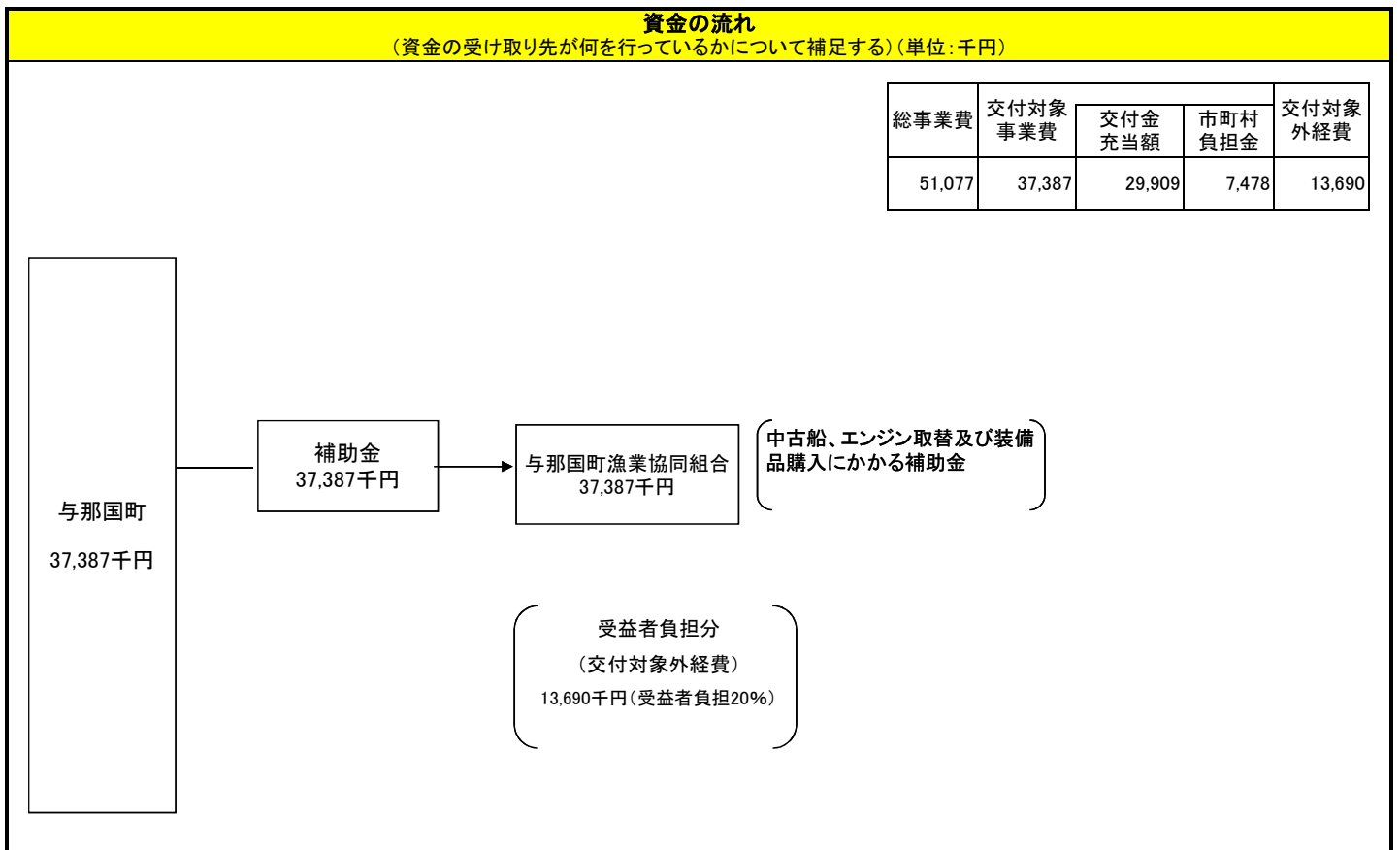
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,492	5,492	4,394	1,098	0



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、漁業協同組及び農業生産法人を対象としていることから、支出先として妥当であると考えられる。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○農産物の生産高の減少に伴う不用額が生じているが、予算規模については妥当であったと考えている。
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については輸送実績を持って決定しており、妥当であったと考えている。
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	与那国町漁業担い手育成プラン実施事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化	
事業内容	与那国町の漁業従事者団体による漁業設備の貸し付けに対して支援を行い、漁業従事者の維持確保を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度(繰越)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	—	24,000	48,000	46,250	36,000
	(b) 予算現額	—	24,000	48,582	46,250	45,965	
	(c) 増減額(b-a)	—	0	582	0	9,965	
	(d) 繰越額	41,599	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	41,599	24,000	48,582	46,250	45,965	
	B. 執行済額	35,274	21,144	48,582	38,844	37,387	
	うち交付金充当額	28,219	16,915	38,866	31,075	29,909	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	84.8%	88.1%	100.0%	84.0%	81.3%	
予算の状況の説明	当初購入予定の中古船について、エンジンの不具合が有り購入を取りやめたため8,578千円の不用額生じた。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	目標	(漁船等の購入及び貸付の実施)	(漁船等の購入及び貸付の実施)	(漁船等の購入及び貸付に対し) 支援の実施	(漁船等の購入及び貸付に対し) 支援の実施		
実績	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施	漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施			
達成状況説明	漁業従事団体が貸し付けるための船舶、エンジン及び装備品の購入に対し補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H25年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(令和3年度)
	既存漁業従事者数の維持確保 33人以上	目標	(32人)	(32人)	(32人)	(34人)	(40人)
		実績		32人	33人	35人	
	【参考指標】 漁業経営の安定確保	目標	()	(漁業経営の維持確保)	(漁業経営の維持確保)	(漁業経営の維持確保)	()
		実績		漁業経営の維持確保	漁業経営の維持確保	漁業経営の維持確保	
進捗状況説明	令和元年度は、新規就業者2人が増加し、従事者総数については前年度から2人増の35名となった。今後の推移としてIUターン者が数多く見込まれており、本事業を継続的に推進することで新規就業者及び既存漁業従事者の維持確保を図り漁業経営の安定化に繋げる。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・沖縄県地域漁業担い手確保事業を活用し、漁業従事者の確保を進めたことでR2年度においては1名の新規就業者の受け入れを予定している。	・沖縄県地域漁業担い手確保事業を活用し、Uターン者の確保を行っているが、Uターン者の確保が図られていないことから、更なる漁業従事者の維持確保を図るため漁協を中心としたPR等を行う必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>・令和元年7月に、Uターン者を対象とした水産業新規就業者用定住型住宅が完成したことで、受け入れ体制が確保が図られており、これまで以上に新規就業者の維持確保を図って行く。また、既存漁業従事者についてもこれまで通り、漁船、漁具等の貸し出し漁業経営の安定化に取り組む。</p>		

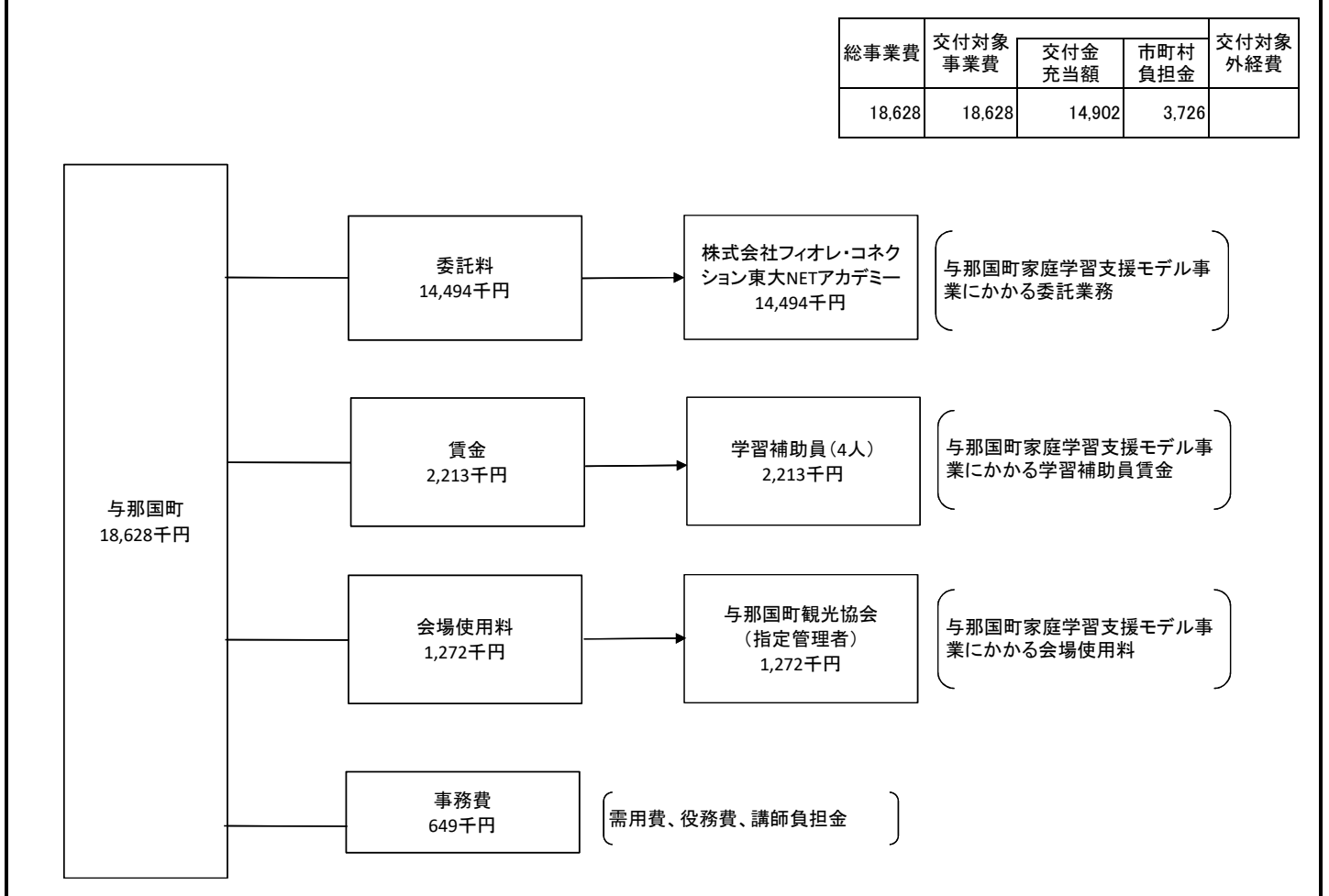


資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の支出先については、漁業従事団体を対象としていることから、支出先として妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○見積等を徴収し、予算規模を決定しており妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については事業費の20%負担しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	家庭学習支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ	
担当部署名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	H24~R3		沖縄振興基本方針該当箇所	生涯学習社会の実現	
事業内容	町内の小中学生の学力を向上させるため、学習習慣の確立補助を目的とした町営の学習塾を運営し、地理的、経済的要因等に左右されない教育環境の整備、都市部と同程度の教育環境の実現を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,249	18,249	18,233	19,657	20,996
		(b) 予算現額	18,249	17,549	17,273	19,737	19,438
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 700	▲ 960	80	▲ 1,558
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		18,249	17,549	17,273	19,737	19,438
	B. 執行済額		16,605	16,786	16,677	19,180	18,628
	うち交付金充当額		13,283	13,428	13,341	15,343	14,902
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.0%	95.7%	96.5%	97.2%	95.8%
予算の状況の説明		人件費を4名分積算していたが、人材不足により年度途中まで3名の雇用だったため人件費が減となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	町営塾の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	町営塾受講率:60%	目標	(60%)	(60%)	(60%)	(60%)	
		実績	28%	46%	51%	46%	
遠方地域の受講生の送迎手段の確保 タブレット学習の実施 学カテストの実施 4回	目標	()	()	(確保・実施・4回)	(確保・実施・4回)		
	実績			確保・実施・4回	確保・実施・4回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・町営学習塾を実施した。 ・受講率は前年度と比べ5ポイント減。 ・送迎手段は町営路線バスと授業時間を合わせて運行している。 ・タブレットを使用したプログラミング授業を実施した。 ・学カテストを実施した。 ※クラス分けテスト:1回、各学期テスト:3回、計4回実施。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平均偏差値50の達成割合: 中学校19.0%以上	目標	()	(19%以上)	(19%以上)	(19%以上)	()
		実績			16%	24%	15%
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平均偏差値50の達成割合: 小学校33.3%以上	目標	()	(33.3%以上)	(33.3%以上)	(33.3%以上)	()
		実績			40%	14%	28%
進捗状況説明	・中学生は9ポイント減、小学生は14ポイント増となった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証 (各学年の年間平均偏差値50の達成割合:中学校19.0%以上、小学校33.3%以上) ・小学校に関してはクラス分けを行い、基礎クラスにおいて基礎問題からポイントを絞って繰り返し復習する形式の授業を実践したことが目標達成の要因と考えられる。 ・中学生に関しては、基礎クラスと発展クラスの間程度の学力を持つ生徒に対して効果的な指導ができなかったことが要因と思われる。	(各学年の年間平均偏差値50の達成割合:中学校19.0%以上、小学校33.3%以上) ・小学校に関しては基礎クラス、発展クラスとに分けたことによって、成果が見られたため、次年度も引き続き継続していく。 ・中学校に関しては基礎クラスと発展クラスの間程度の学力の生徒へ対しては、担当講師と連携をとりフォローできる体制を整えていく。	
今後の取り組み方針		
・引き続き学力に応じてクラスを分け、各々に対する指導をすることで、児童生徒の学力向上を図る。 ・基礎クラスと発展クラスの間程度の学力の生徒に対して、基礎クラスに留まるのではなく、発展クラスを目指すような声かけ等を行っていく。		

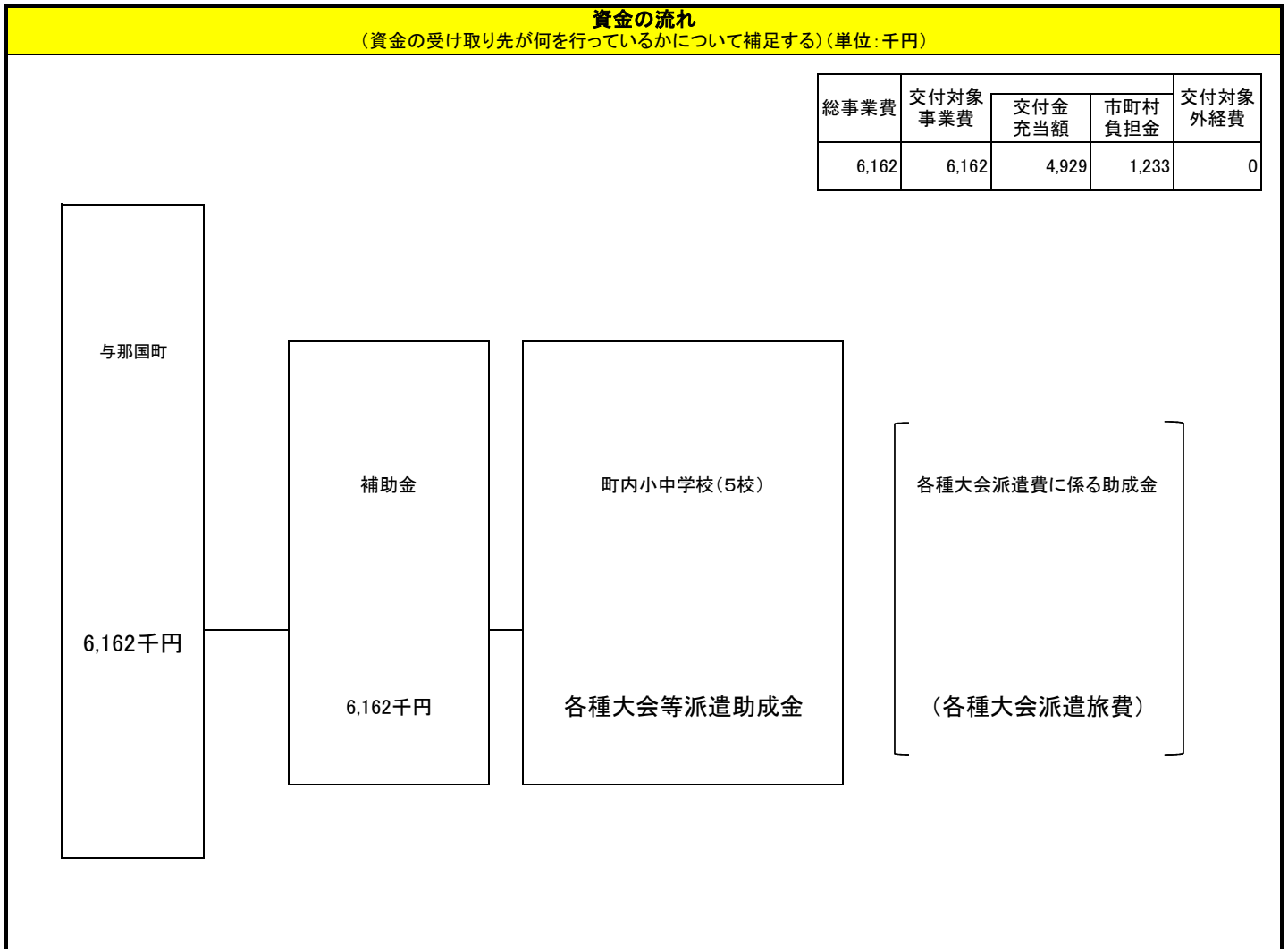
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札により選定している。学習支援員の賃金は、与那国町賃金職員雇用管理規則に基づき支出しており、雇用人数とも妥当であった。 ○予算規模は委託の入札残により不用額が生じたが、適正な規模であった。 ○費用・使途については、額の確定時に確認し、事業目的達成のため、必要なものであり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	教育諸活動助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ	
担当部課名	与那国町教育委員会 総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生涯学習社会の実現		
事業内容	町内の児童生徒の各種大会派遣費(航空運賃等)を支援することにより、与那国町に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供し、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,000	10,000	12,000	10,000	10,000
		(b) 予算現額	10,101	12,900	16,320	10,000	10,000
		(c) 増減額(b-a)	2,101	2,900	4,320	0	0
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		10,101	12,900	16,320	10,000	10,000
	B. 執行済額		9,586	12,499	14,826	8,501	6,162
	うち交付金充当額		7,668	9,995	11,860	6,801	4,929
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%	96.9%	90.8%	85.0%	61.6%
予算の状況の説明		令和元年度は台風や天候不良、学校行事と重ね大会派遣を実施できないこともあり不用額が3,838千円発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	各週大会派遣の実施	目標	(各週大会派遣の実施)	(各週大会派遣の実施)	(各週大会派遣の実施)	(各週大会派遣の実施)	
		実績	派遣回数59回	派遣回数71回	派遣回数50回	派遣回数47回	
	【参考指標】 各種大会派遣人数(R元年度 363人)	目標	(390)	(450)	(432)	(443)	
		実績	525	679	447	363	
達成状況説明	町内5校の児童生徒を陸上・卓球・バドミントン・テニスのスポーツ系の大会や、英語スピーチコンテスト、吹奏楽祭、地区中学校文化祭等の文化系の大会等、各週大会へ派遣した。今年度は昨年に比べ回数的に減っているが台風で欠航や各学校での行事が重なったことが要因となっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(23年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	対象児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績			未実施	100%	
	【参考指標】 各種大会派遣人数(R元年度 363人)	目標	()	(450)	(432)	(443)	()
		実績		679	447	363	
	進捗状況説明	令和元年度は前年度に比べ84名減になっていますが児童生徒にとっては貴重な経験を得ることができた。台風や学校行事等で参加できず、又、新型コロナウイルス感染症の影響で大会自体が中止になったこともあり参加人数が減となる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	保護者対象のアンケートの実施により、各種大会への派遣を実施することで児童・生徒の視野の広がりが感じられることがわかった。課題として、学校行事等で参加できない生徒が居たことから当初計画を学校と地区大会等の連携を常に密にして計画を立て、多くの児童生徒が参加できるようにする。	派遣により児童・生徒の成長がこれまで以上に発揮できるように、学校と連携を取りながら大会出場に向けての計画などを立てることでこれまで以上に質の高い派遣実施を行う。
	今後の取り組み方針	
・各学校と一年間に出る大会等に向けてのスケジュール感や目標値を派遣実施に関してヒアリングをしていきこれまで以上に質の高い大会派遣を目指す。		



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・各学校からの申請や交付要綱等に基づき補助を行っているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は適正な規模で確保されており、台風等で不用額は生じたが妥当であると考えられる
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・与那国町立学校児童生徒派遣費等補助金交付要綱により妥当であったと考える
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費用・使途については実績報告で審査しており、適切であったと考える。

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③		地域国際交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-5-(4)-ア	
	担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
事業内容		本町の姉妹都市である台湾花蓮市へ町内小学6年全児童を派遣する。テレビ会議システムを用いた事前事後の交流、タバロン小学校での交流授業やホームステイを通して異文化体験を行い、異文化適応能力と言語コミュニケーション能力を培うことで、国際社会に適応する人材の育成を図る。					Ⅲ-3-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,432	3,002	3,634	4,507	5,052
		(b) 予算現額	3,230	3,002	3,531	4,507	3,272
		(c) 増減額(b-a)	▲ 202	0	▲ 103	0	▲ 1,780
		(d) 繰越額	—				
		A. 計(b+d)	3,230	3,002	3,531	4,507	3,272
	B. 執行済額		3,230	2,897	3,531	4,507	2,989
	うち交付金充当額		2,583	2,317	2,825	3,605	2,391
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	96.5%	100.0%	100.0%	91.4%
予算の状況の説明		・当初計画では、ICT交流に係るシステム構築を委託にて行う予定だったが、職員により対応行なったため1780千円減額となっている。 ・283千円については交付対象外経費のため、町負担に切り替え不用となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	ホームステイの実施(14人)ホームステイ報告会の実施報告書の作成	目標	(15人・実施・実施)	(16人・実施・実施)	(21人・実施・実施)	(4人・実施・実施)	
		実績	14人・実施・実施	16人・実施・実施	21人・実施・実施	17人・実施・実施	
	・テレビ会議システムによる中継交流の実施	目標	()	()	()	(2回)	
		実績				2回	
・保護者、引率教諭への事後アンケート調査の実施	目標	(児童のみ実施)	()	(実施)	(実施)		
	実績	児童15人実施		実施	実施		
達成状況説明	・予定どおりの日程で事業を実施し、町内小学6年全員を花蓮市のタバロン小学校へ派遣することができた。 ・9月に顔合わせのための事前交流、3月に振り返りのための事後交流を実施した。事後交流ではARアプリを使用した交流を取り入れた。 ・報告書は新聞形式をとり、作成・掲示を全児童が行った。与那国小学校は学校祭にて新聞を掲示、久部良小学校と比川小学校は2校間での中継授業により5年生を含めた報告 ・振り返りを実施した。 ・2月の学力向上推進実践報告会にて、PTAと地域住民を対象に動画を用いた報告を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	帰国後、児童の国際的な視野がより広まったと感じた保護者の割合(80%以上)	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績			50%	94%	
進捗状況説明	・アンケートはテレビ会議システムによる事後交流後に17世帯へ配布し、全世帯より回収した。 ・「本事業での体験をとおし、以前に比べて外国や異文化への興味関心が高まったと感じるか」の問いに16人が肯定、1人がわからないと回答し、肯定的な回答が94%となった。						

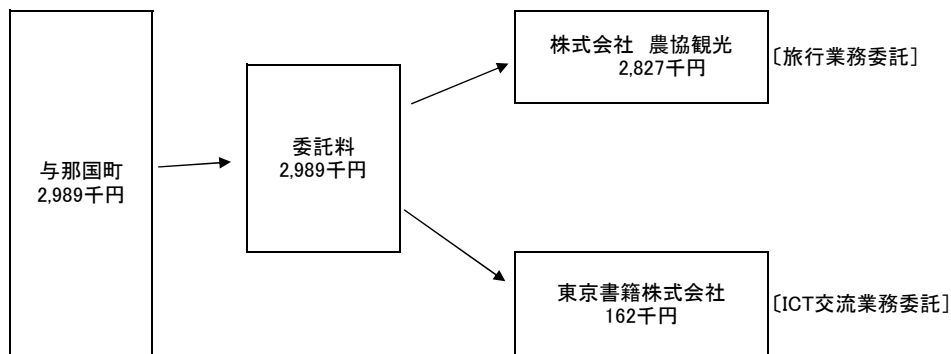
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・ICTを活用した事前・事後交流に取り組んだことで半年間の継続した交流を行うことができ、異文化に対する興味関心を深めることができたと考えられる。	・事前・事後交流を引き続き実施する。また、ICTを活用してホームステイ体験の可視化と記録を行い、保護者・担任教諭・児童同士で共有を進めることで学びや異文化に対する興味を深める。

今後の取り組み方針

・次年度もICTを活用した事前・事後交流を行い、ホームステイ派遣を含め一定期間継続した交流を実施する。
 ・学級通信や児童作成の新聞にホームステイの写真や動画を組み込むことで、体験を可視化する。作成した材料を基に保護者・担任教諭・児童同士で体験を共有することで、興味や学びを深める機会になる。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,272	2,989	2,391	598	283



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札に基づき選定を行ったため、妥当と考えられる。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○8.6%の不用額が発生しており、改善が必要。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○研修や渡航費に係る費用以外は受益者負担となっており、負担関係は妥当であったと考えられる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○精算の段階で必要資料を点検したが、費目・使途は事業目的に即しており、必要であったと認められる。

市町村名		与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-④		ジュニア海外語学研修派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-3-(12)-オ		
	担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流と貢献による離島の新たな振興	
事業内容		町内の選抜中学生を対象として、ジュニア期の早い時期に欧米への短期ホームステイ派遣を行い、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成を図る。					Ⅲ-3-(1)	
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,116	3,120	2,550	2,800	2,800	
		(b) 予算現額	2,868	2,542	2,800	2,707	2,731	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 248	▲ 578	250	▲ 93	▲ 69	
		(d) 繰越額	—					
	A. 計 (b+d)		2,868	2,542	2,800	2,707	2,731	
	B. 執行済額		2,867	2,465	2,729	2,696	2,716	
	うち交付金充当額		2,293	1,972	2,183	2,156	2,172	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.0%	97.5%	99.6%	99.5%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は全て実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	研修派遣の実施 4名		目標	4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
			実績	アメリカ 4人	アメリカ 4人	アメリカ 4人	アメリカ 4人	
	報告会の実施 報告書の作成		目標)	(実施・作成)	(実施・作成)	(実施・作成)	
			実績		実施・作成	実施・作成	実施・作成	
・生徒、保護者、教諭(英語担当、学級担任)への事後アンケート調査の実施		目標)	(生徒のみ実施)	(実施)	(実施)		
		実績		生徒のみ実施	実施	実施		
達成状況説明	・アメリカワシントン州に4名の生徒を派遣した。 ・与那国中生徒は文化祭にて、久部良中生徒は吹奏楽部定期演奏会にてそれぞれPTA・地域住民・同校生徒に向け、報告会を行った。 ・自由形式の報告書(1人15ページ程度)と日記形式の報告書をそれぞれ作成した。 ・派遣生徒4人、保護者4人、教諭(校長、英語担当、学級担任 3人×生徒4人分)を対象に11月にアンケート調査を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた保護者の割合(80%以上)		目標)	()	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績			100%	100%	
進捗状況説明	・派遣生徒4人、保護者4人、教諭(校長、英語担当、学級担任 3人×生徒4人分)を対象に11月にアンケート調査を実施した。全員より回収。保護者4名の回答を集計した結果、「ホームステイ派遣が、外国に対して興味を深めるきっかけになった」との問いに4名が肯定的に回答し、目標値に達した。							

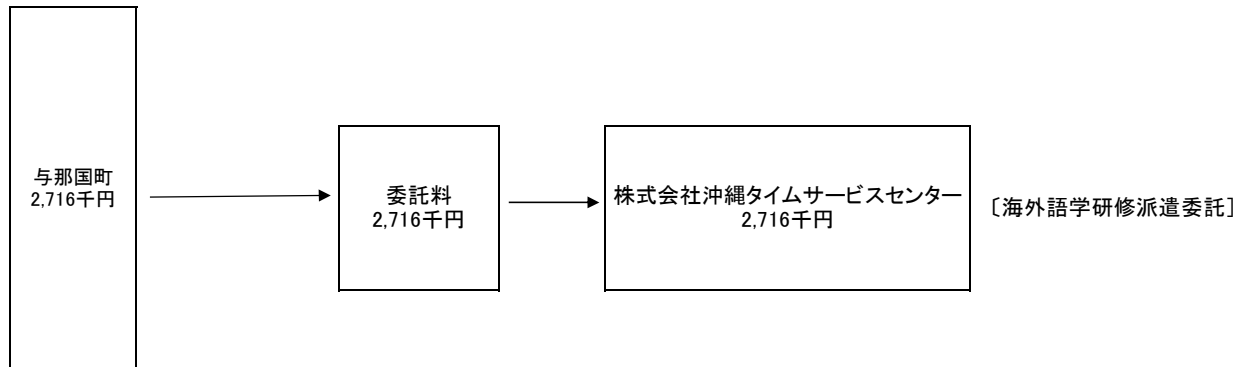
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【アンケート】 帰国後報告会(役場内・学校)や進路選択の場面で、生徒の成長や思考の変化を保護者が感じやす時期にアンケート調査を行ったことが、数値にも反映されたと考えられる。また、検定受検やテストなど数字で派遣の成果を感じられたと推測できる。</p>	<p>語学学習の意欲向上と異文化理解の促進を図るために、引き続き、3週間程度のホームステイ派遣を実施するとともに、自身の目標や体験をアウトプットできる機会(出発・帰国報告会、目標シート・報告書の作成、新聞社への投稿)を設ける。</p>

今後の取り組み方針

- ・元年度より行っている目標達成シート(派遣前・中・後)を引き続き実施し、具体的な達成手段や達成値など生徒・保護者間で評価を共有してもらえるような呼びかけを行う。
- ・例年作成している報告書に加え、作文形式の体験報告を新聞社へ投稿する。保護者を含め広く地域住民に生徒の体験や考えについて触れてもらう機会とし、後輩への意欲喚起につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,731	2,716	2,172	544	15



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札に基づき選定を行ったため、妥当と考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は1%未満となっており、適正であったと考えられる。○研修や渡航費に係る費用以外は受益者負担となっており、負担関係は妥当であったと考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○精算の段階で必要資料を点検したが、費目・用途は事業目的に即しており、必要であったと認められる。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 与那国町

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名: 5-① 安心・安全のまちづくり支援事業
担当部課名: 長寿福祉課
事業実施(予定)年度: 平成25年～令和3年
沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所: 第3章-3-(11)-イ
沖縄振興基本方針該当箇所: III-4-(1)

事業内容: 就学前児童及び小学校3年生以下を対象として、教育課程に係る教育時間終了後に公共施設の一室を利用して、子どもにとって安心・安全な場所を設け、遊びの場を提供し、保護者の子育てを支援する。

効果発現年度: 当年度 () 後年度()年度

実施方法: 直接実施 () 委託 () 補助 () 負担 () その他 ()

Table with columns for years (H27, H28, H29, H30, R1) and rows for budget status (a-d), execution amount, and execution rate.

Table for activity goals and achievement status, including 'R1活動目標(指標)' and '達成状況' with specific data for staff maintenance.

Table for outcome goals and progress status, including 'R1成果目標(指標)' and '進捗状況説明' with survey results.

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの要望が多い給食は、施設の環境整備が整っていないため早期の実現は難しい。 ・支援員の質の向上と保護者が預けやすい環境整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有資格者の確保、支援員の定期的な研修が出来なかった。令和2年度は、支援員の研修を行っていく。 ・保護者が預けやすい環境整備としてアンケートで多かった送迎を行っている。 ・今後も保護者の要望等を聴衆して改善の余地があれば改善に努める。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・有資格者支援指導員の確保に向けては、庁舎内関係課と協議していく必要がある。支援指導員の質の向上に向け、元年度計画していたが、実施出来なかったもので2年度は町内保育所での研修の場を増やしていくこととする。 ・アンケートを今後も行い問題点の改善も図っていく。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,288	4,288	3,430	858	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>預かり人数が35名前後の規模であり、支援指導員は3名(1職員15名程度)の配置が適正としている。</p> <p>費目・使途については事業目的達成のためにも必要な経費に支出されていることから予算規模は妥当と考えられる。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	少子高齢化対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	長寿福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-4-(1)	
事業内容	本町唯一の医療機関である与那国診療所には、各専門医がないため、出産又は専門医療を受けるためには、島外の石垣島へ通院する必要がある。そのため妊娠から出産までに必要となる渡航費等の費用について支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,507	1,551	3,900	2,228	1,046
		(b) 予算現額	1,507	2,851	955	1,328	1,021
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,300	▲ 2,945	▲ 900	▲ 25
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	1,507	2,851	955	1,328	1,021
	B. 執行済額		936	2,480	955	1,272	1,021
	うち交付金充当額		748	1,983	764	1,117	976
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		62.1%	87.0%	100.0%	95.8%	100.0%
予算の状況の説明		平成29年度途中より宿泊費に関する補助規定の見直しを行ったのでR1年度も予算を減額した。補助対処者数は、平成30年度より減少し、宿泊費を利用する者も減少したため、事業費が前年度より減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	R1年度	
	・妊産婦定期健診・出産時の渡航費、宿泊費の助成事業		目標 (渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	
		実績	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	
達成状況説明		・母体の心身の変化が著しい時期である妊娠、出産期において、渡航費補助を継続し経済的負担の軽減を図ることで、妊産婦の定期健診を実施することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	R1年度	目標値(年度)
	島内での妊産婦定期健診等医療サービスが必要な方のうち、支援を受けて渡航した方の割合100%		目標 ()	(11名)	(100%)	(100%)	()
			実績	29名	95%	90%	
	【参考指標】 妊産婦定期健診、渡航費の助成対象者		目標 ()	(20名)	(20名)	(20名)	()
			実績	31名	19名	18名	
進捗状況説明		・平成27年度までは、人口は減少で推移していたが、平成28年度より自衛隊が駐留し島外出身者が230人程増加し、1750人程で推移している。20代後半から30代の人口の増減がなく、妊産婦の人数が20名程で推移している。 ・島外出身者以外の地元住民の第二子以降の出産が増えてきており、事業の継続的な実施により定住環境の改善への取り組みが進んだと判断している。					

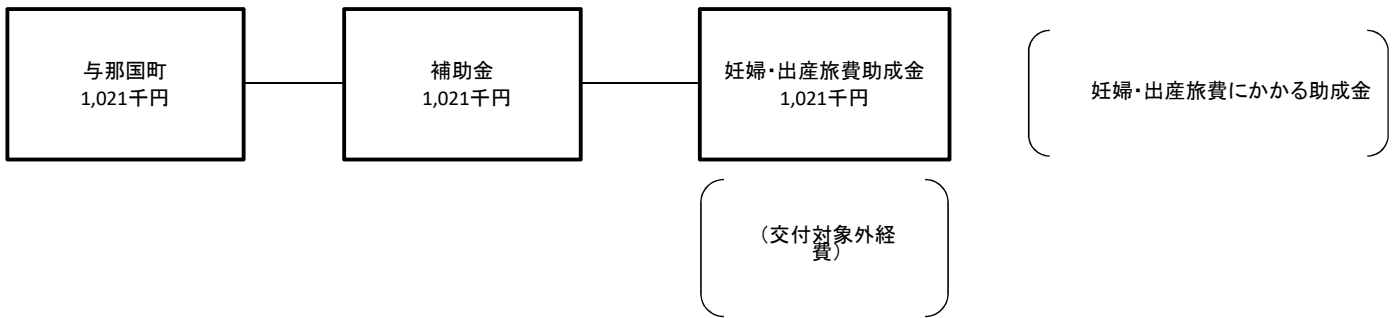
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・島外出身者家族は核家族が多く周りに知り合いが少ないため、心身(精神的)に不安を抱えやすい。	・妊産婦が心身の不安が解消できるよう手立てを行う。 ・保健師や母子推進委員が訪問等を多く行いケアをしていけるようにする。

今後の取り組み方針

・母子推進員、保健師、民生委員とのコミュニケーションを多く図り、妊産婦の心身のケアをしていく。
 ・妊産婦が20名程で推移している。少子化対策の事業の効果は確実であり一定の評価も得ていると思われる。このことから、今後も継続的な支援策の実施は必要であるため、恒久的な事業として取り組んでいく。
 ・通常出産では対応が困難な事例に対応するため、今後も、出産後に起こり得る精神的不安や経済的不安にも対応していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,021	976	780	196	45



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・妊産婦通院費助成金交付金申請により、対象者及び実績を確認の上で決定しており、妥当であると判断している。 ・執行額に減額があったものの、ほぼ規模に適合しており適切であった。 ・費目・使途については、事業内容に即した適切な内容であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 与那国町

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (7-①), 公共交通路線支援事業, 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-3-(11)-ウ), 担当部課名 (企画財政課), 事業実施(予定)年度 (平成24~令和3年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (Ⅲ-9-(1))

事業内容 地方バス運営に必要な経費を支援することにより、生活路線バスの安定的な運営を維持し、定住するために必要な条件を整備すると共に、来島者の利便性向上も図る。

効果発現年度 ■当年度 □後年度(年度)

実施方法 □直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()

Table with 7 columns: 27年度, 28年度, 29年度, 30年度, R1年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), 予算の状況 (a-d), A. 計(b+d), B. 執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明

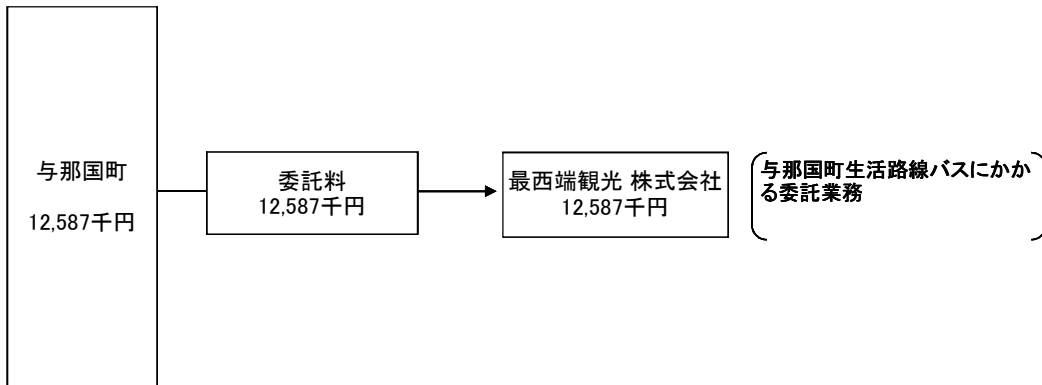
Table with 5 columns: H31活動目標(指標), 30年度, R1年度, 2年度, 3年度. Rows include: 活動目標(指標)及び達成状況 (公共交通路線バス運行費用への支援), 達成状況説明

Table with 7 columns: H31成果目標(指標), 基準値(年度), 30年度, R1年度, 2年度, 3年度. Rows include: 成果目標(指標)及び進捗状況 (利便性の確保が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。), 進捗状況説明

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果(利便性99%)を基に今後ニーズに見合った運行を図る。 来島者への交通アクセスの課題が生じている 例:航空便発着に合わせた地域間への運行の利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 早発防止や快適な乗車に努め、併せて安定的な運行やニーズに見合った路線に対応する。具体的には利用率アップを図るための運行時間帯の検討や地域間での交通の改善(路線の検討)をバス対策会議で引き続き検討し公共交通の利便性且つ利用率向上を図る。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民は基より、来島者のニーズに見合った利便性の高い運行に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,587	12,587	10,070	2,517	0



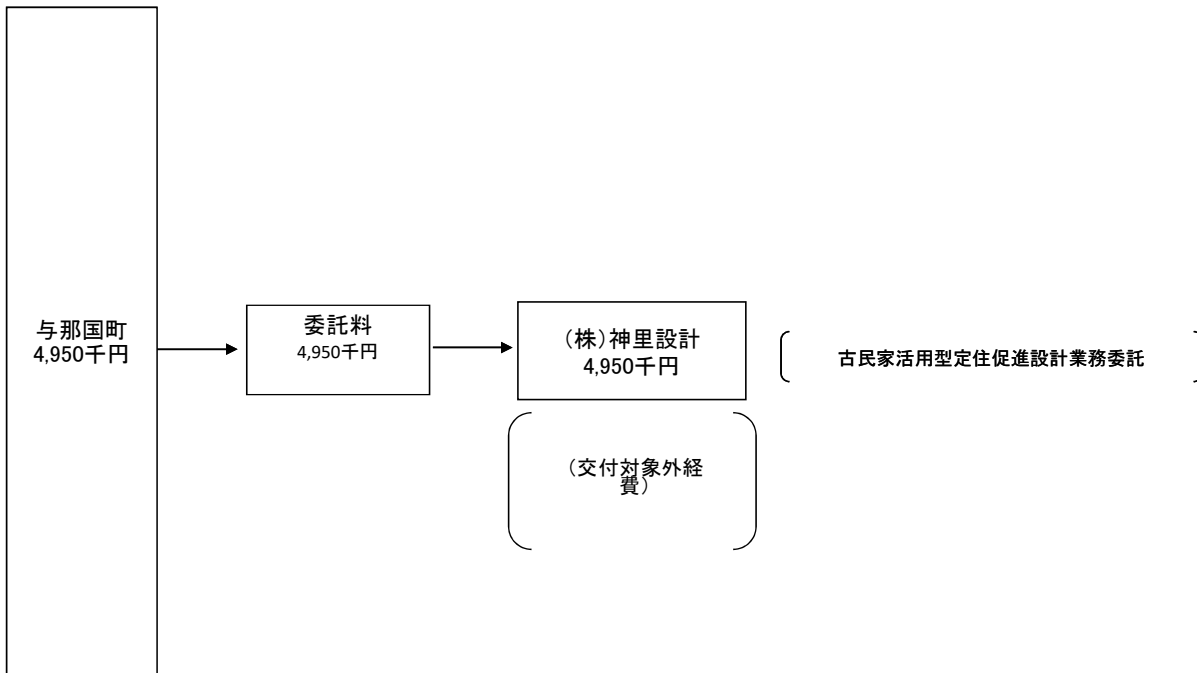
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○与那国町では現在、大型観光バス業務及びタクシー業務等を行っている事業者が1事業者しかいないため、その事業者と随意契約により委託契約を締結している。これまでの実績等も勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成31年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	与那国町古民家活用型定住促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-エ	
担当部課名	企画財政課 交流推進班	事業実施(予定)年度	平成26～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	過疎・離島地域の振興		
事業内容	平成26年度与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画の成果に基づき、モデルとする古民家の解体・移築を通して、新旧を融合させた持続可能な建築技術の継承に取り組むとともに、整備した古民家を活用して定住促進を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		29年度	29年度(繰越)	R1年度	R2年度	R3年度
		(a) 当初予算額	40000	-	5,000		
		(b) 予算現額	-	-	4,950		
		(c) 増減額(b-a)	-	-	▲ 50		
		(d) 繰越額	35,810	35,810	0		
		A. 計(b+d)	40,000	35,810	4,950		
		B. 執行済額	4,190	35,810	4,500		
		うち交付金充当額	3,352	28,648	3,600		
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	10.5%	100.0%	90.9%		
予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容はすべて実施した、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて予算額は、適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H31活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	2年度	
	シニア型住宅1棟の設計・工事の実施		目標 (設計、工事実施)	(工事、監理実施)	(設計)	()	
			実績	設計完了	工事、監理完了	設計完了	
達成状況説明	・実施設計完了						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度(繰越)	31年度	2年度	
			目標 ()	(設計、工事実施)	(設計、工事実施)	() ()	
	シニア型住宅1棟の設計・工事の完了		実績	設計、工事完了	設計完了		
	進捗状況説明	・実施設計完了					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・解体マニュアルを基本に古民家の解体に努め移築工事に繋げる・完成後の周知や募集を行い入居者(移住者)を推進する。	・実施設計を基に解体並びに建築工事に努める。また、完成後は移住定住への促進を図り(移住定住フェア等によるPR活動等)入居へと繋げる。
	今後の取り組み方針	
<p>建築工事を完了し、シニア中心に移住定住への促進を図る。具体的には、HPでの情報発信、既存のイベントでのPR活動(相談会参加)を積極的に実施し、移住定住への向上に努める。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,950	4,500	3,600	900	450



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正規模だと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	与那国町国境交流結節点化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-3-(11)ーウ		
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	令和元年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化 Ⅲ-9-(1)		
事業内容	本町の地理的優位性を活かし交流人口の増加を図るため、国際交通及び国際交流の拠点化に向けた施策を展開する。今年度は基礎調査を行い、行動計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,314				
		(b)予算現額	5,269				
		(c)増減額(b-a)	▲ 45	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A. 計(b+d)	5,269	0	0	0	0
	B. 執行済額		5,269				
	うち交付金充当額		4,215				
	次年度繰越額		0				0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
	・与那国町国境交流結節点化可能性調査業務の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明	本年度は交流事業に関する事前の調査業務を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度		目標値(3年度)	
	・与那国町国境交流結節点化可能性調査業務報告書の完成	目標	()	(実施)	()	()	(高速船実証就航)
		実績		実施			
	【令和2年度成果目標】 与那国町国境交流結節点化可能性調査業務報告書において交流人口に関する指標を設定し、交流人口増加に向けた取組の確実な実施につなげる。	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和元年度与那国町国境交流結節点化推進事業報告書作成は以下に整理し報告書を全体として552ページの報告書と資料編として135ページの報告書を作成した。 1. 国境交易・交流に向けた法的枠組は関税法等の国内法から船舶安全法まで整理。 2. 先進地の取組状況等については、対馬市、関連する韓国釜山の取り組みや、直接開港に向けた当時の関係者の聞き取り調査等を実施した内容の整理。 3. 与那国町における課題の整理と行動計画の策定については、特別区申請を視野に入れた提言をまとめた。 4. 課題として感染症対策にも取り組み必要性等もくみ上げた。						

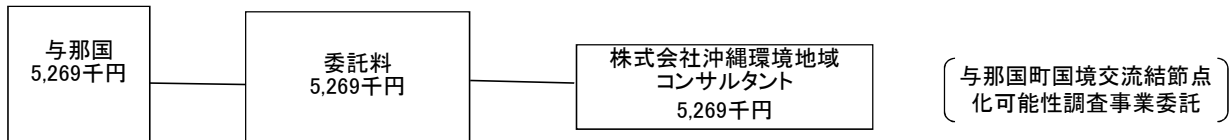
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	新型コロナウイルスによる国際的規模の感染症の発生により外国との交流の難しさが露見したこともあり、感染症対策としての水際対策から発生した場合の対応まで疫学的対応に関しても整理していく必要がある。	旅行者の入域に伴う「移入感染症」への予防的対応、感染症患者への初動対応や急病人を含めた重症患者初期医療提供体制、付随する高度医療機器の整備や緊急搬送時の対策、死亡時の遺体の取り扱い等に関し、予め地方自治体の役割・行動・対応等を定める必要がある。

今後の取り組み方針

トライアル企画(社会実験)の準備事業として申請等の個別マニュアルの作成や、需要創出調査、高速船社会実験企画の準備を実施するが、改善の余地に示した「移入感染症」への対応指針を数年かけて整備していくことが必要であり、そのための予備的な調査にも取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,269	5,269	4,215	1,054	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

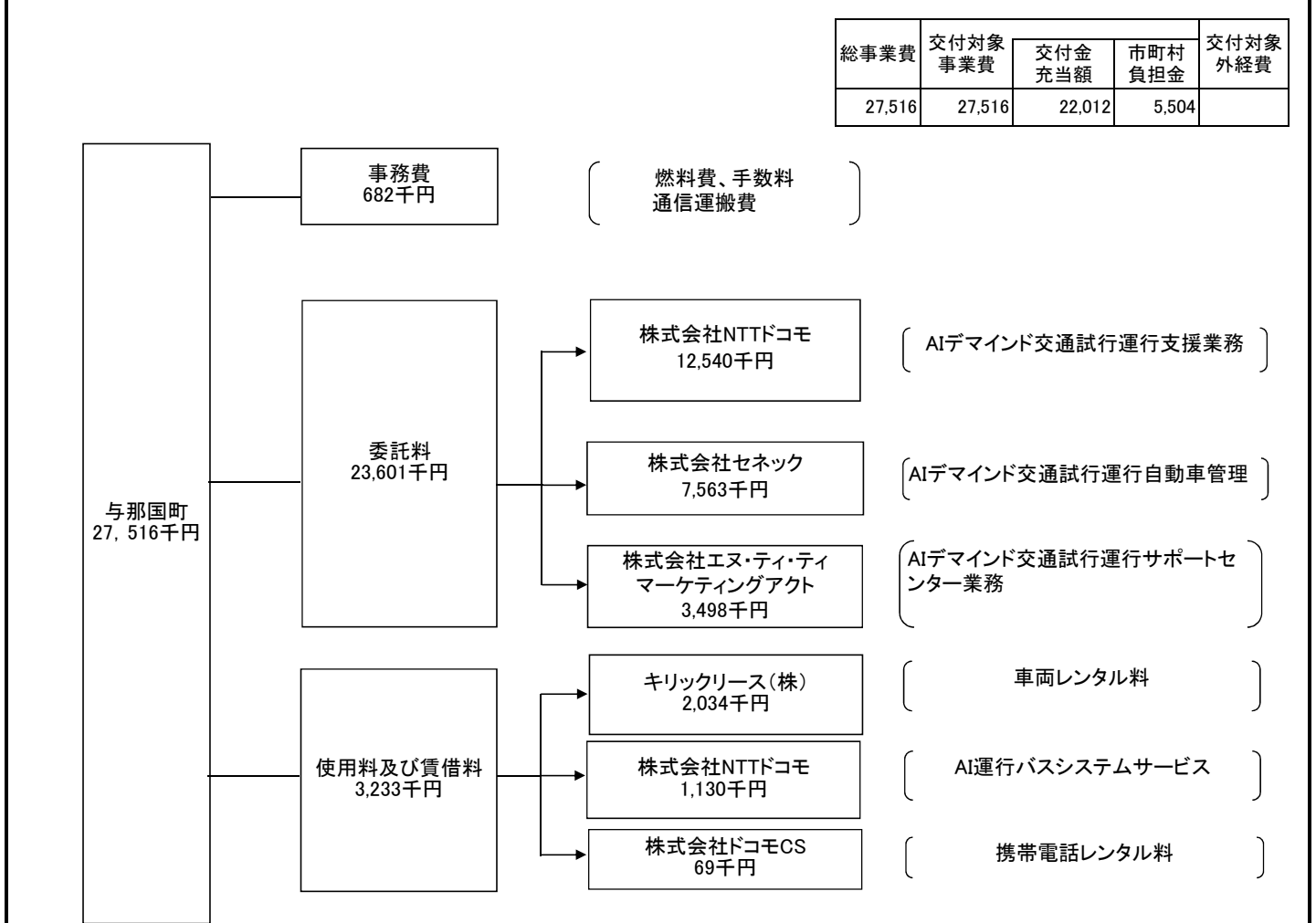
市町村名	与那国町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	与那国町デマンド交通運行事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-(ウ)		
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島定住条件基盤整備 Ⅲ-9-(1)		
事業内容	継続可能で安定した公共交通網の整備を目的として、ICTを活用した新たなデマンド交通の試行運行を実施する。今年度は、AI運行システムによるデマンドバスの試行運行を行い、その結果を多面的に評価し次年度以降の本格導入検討作業に繋げる。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	29,445				
		(b) 予算現額	29,445				
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0			0	
		A. 計(b+d)	29,445	0	0	0	0
		B. 執行済額	27,516				
		うち交付金充当額	22,012				
		次年度繰越額	0			0	
		執行率(%) (B/A)	93.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	与那国町対応業務にて、電話対応の人的費を想定していたが人員を確保できなかったため、執行予定額を下回る状況となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	与那国町デマンド交通試行運行の実施	目標 (実施)	()	()	()		
達成状況説明	<p>○事業計画に沿って、2019年9月17日から12月16日(3か月間)でデマンド交通試行運行を実施した。</p> <p>○試行運行主体は与那国町として、運行支援業務、自動車管理業務、サポートセンター業務の各業務を委託する形で実施した。</p> <p>○AI運行システムを採用したため、予約の基本はスマートフォンの専用アプリから行いが、携帯の操作が困難な高齢者は、リスト化して社会福祉協議会の支援を依頼して実施。</p> <p>○試行運行全体のオペレーションは(電話予約受付も含む)、サポートセンターへ委託、車両管理及び運転手の管理は専門業者へ委託することで、円滑な試行運行の実施に繋げることができた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)	
	・与那国町デマンド交通試行運行評価書の完成	目標	()	(1式)	()	()	/
		実績		1式			
	【R2成果目標】 デマンド交通試行運行の結果等を踏まえ、町における公共交通の目標利用者数を設定し、離島地域における持続可能で利便性の高い公共交通導入に向けた取組の確実な実施につなげる。	目標	()	()	()	()	/
実績							
進捗状況説明	○「与那国町デマンド交通試行運行評価書」の作成にあたっては、内部評価ではなく外部から評価するものとして、支援業務を請け負った業者から別のコンサルへ業務を委託し実施した。評価にあたり、試行運行期間終了後すぐに全町民対象の利用者アンケートを実施、その他に、観光客等の来訪者の意見も反映させるため、乗車時に紙又はWeb上でのアンケートを依頼した。また、AI運行システムにより管理していた各データログを詳細に分析して、利用の傾向や頻度等のデータを整理し、評価書を取りまとめた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>前年度のトライアルデマンドバスから、本格的な試行運行の実施と期間をもって取り組めたことで、継続可能で安定した公共交通網の整備を図るための本格的なデマンド交通導入に向けた判断基準となるデータを十分に得ることができた。</p> <p>しかしながら、交通弱者、一般住民、観光客(来訪者)が求める要望は、必ずしも一致しない状況があり、与那国町としてどのように検証し対応するかは重要な課題となった。</p>	<p>本年度の業務において、試行運行と合わせて、デマンド交通試行運行評価書を作成したが、全町民アンケート、来訪者アンケート、AI運行システムによるログデータの解析から、デマンド交通の有効性の実証とともに、様々な課題も確認された。</p> <p>当該事業とは別に、与那国町公共交通網形成計画の策定も実施したことから、新たな公共交通としてのデマンド交通の導入を地域の事情に即した形で導入するための協議を交通会議等にて継続して実施する。</p>

今後の取り組み方針

試行運行の実施、評価書の作成と取り組んできたことから、令和2年度は、新たなデマンド交通の導入に向けた判断をする。本格導入にあたっては、庁内における横断的な判断および議会における費用を含めた判断が必要となってくることから、担当課として、導入パターンを複数作成し、持続可能で安定した運営確保に向けた協議ができるよう準備する。そのためにも、これまでの取り組みを交通会議等で深掘しながら協議を継続し、より詳細な導入案を作成できるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○単独事業により試行運行実施計画書を策定した事業者と運行支援業務で随意契約を行ったが、その他は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の6.5%であったが適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○試行運行のため運賃は無料で実施したが、事業内容から判断して妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、必要なものであったと判断した。